

第2章 調査結果の要約

1 定住性

(1) 〈普段の買い物が便利である〉が7割台後半、〈通勤や通学などの交通の便が良い〉が6割台後半

ア 居住地域の評価については、全18項目のうち〈普段の買い物が便利である〉〈通勤や通学などの交通の便が良い〉〈快適で安全なまちである〉〈まちなかの花や緑が多い〉の4項目で肯定的評価（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が6割以上となっている。

イ 〈自転車利用者の交通ルール、走行マナーが良いと感じる〉は否定的評価（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）が唯一6割を超えており、区民の交通マナー意識の向上が求められる。

ウ 前回調査と比較すると、16項目すべてで肯定的評価が減少しており、「子どもたちが文化芸術を楽しめるまちである」で減少が最も大きくなっている。

エ 肯定的評価が約8割と最も高い〈普段の買い物が便利である〉を地域別にみると、第4地域、第6地域、第7地域で8割台後半と高い一方、第14地域で5割台と低くなっている。

オ 肯定的評価が7割強と2番目に高い〈通勤や通学などの交通の便が良い〉は、第6地域で9割と最も高く、第14地域で4割弱と低くなっており、他の項目に比べて地域差が最も大きい項目となっている。

(2) 【暮らしやすい】は2年連続で微減し、【暮らしにくい】が微増

ア 【暮らしやすい】（「暮らしやすい」＋「どちらかといえば暮らしやすい」）は8割台半ばで前回同様の水準である。

イ 【暮らしやすい】を地域別にみると、第6地域で9割台と最も高くなっている。

ウ 【暮らしにくい】（「暮らしにくい」＋「どちらかといえば暮らしにくい」）を地域別にみると、第10地域と第14地域で2割台と他の地域に比べて高くなっている。

エ 【暮らしにくい】と回答した人に、その理由を聞いた結果、「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」が4割台半ばと4年連続で最も高くなっており、次いで「交通の便が悪いこと」が僅差で続いている。

(3) 定住意向がある人は、8割で前回調査をさらに上回り、3年連続で最高値を更新

ア 【定住意向】（「ずっと住み続けたい」＋「当分は住み続けたい」）は、現行の選択肢になって初めて8割台となった前々回以降も増加を続けている。

イ 【定住意向】を地域別にみると、第4地域と第7地域で8割台後半と高くなっている。

(4) 定住性全体について

ア 〈普段の買い物が便利〉、〈交通の便が良い〉、〈快適で安全なまち〉などの利便性や快適性と、〈まちなかの花や緑が多い〉・〈ごみの減少〉・〈景観・街並みが良好〉など美化意識の向上など多くの項目で肯定的にとらえられ、区全体としての暮らしやすさの高評価や定住意向の向上につながっているものと考えられる。

イ 〈交通マナー〉、〈文化芸術に親しめるまち〉などの項目では否定的にとらえられている。

ウ 〈交通の便が良い〉、〈普段の買い物が便利〉、〈行きたい公園がある〉、〈景観・街並みが良好〉については地域差がみられる。

エ 必要と考えられる今後の取り組み

〈自転車利用者の交通マナー〉、〈文化芸術に親しめるまち〉など否定的評価の割合が高い項目への取り組みを強化するとともに、地域差の減少化を推し進めることで、暮らしやすさの評価を向上させ、区民の定住意向をより高めていくことに繋がると考える。

2 大震災などの災害への備え

(1) 【備蓄・買い置きあり】は約7割

- ア 食料の備蓄や防災用具の買い置きなどについては、【備蓄・買い置きあり】（「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」＋「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」）は約7割であり、前回調査時から大きな変動はみられないものの、令和2年度調査以降は漸減傾向となっている。
- イ 食料の備蓄や防災用具の買い置きなどを「特に用意していない」は、令和2年が震災から10年というところで、マスコミ等に災害トピックスとして取り上げられる機会が増えたなどの影響もあり、令和元年までの3割台から2割台半ばに下降したが、ここ3年は漸増傾向となっている。

(2) 備蓄や防災用具の買い置きなどの内容では、「水」（9割）、「食料」（約9割）

- ア 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容では、「水」が9割、「食料」が約9割、「あかり」が7割台半ばで上位3備蓄品となっている。それに続くのが、「簡易トイレ」と「電池・予備バッテリー」が5割強、「医薬品」と「情報収集手段（携帯ラジオなど）」が4割台後半となっている。
- イ 昨年度調査と比較すると、「簡易トイレ」（+17.9ポイント）が大幅に増加している。
- ウ 水と食料の備蓄量について、国の「最低3日分、できれば1週間分」という目標に照らすと、「3日以上1週間分未満」と「1週間分以上」を合わせた【3日以上】で「水」は4割台半ば、「食料」は4割台半ば近くとなっている。なお、今回調査で備蓄量が大幅に増加した「簡易トイレ」については3割となっている。

(3) 家具類の転倒・落下・移動防止対策について、【対策実施・多い】は2割台半ば

- ア 家具類の転倒・落下・移動防止対策については、【対策実施・多い】（「すべての家具類に対策を行っている」＋「対策をしている家具類が多い」）は2割台半ばで前回から微減となった。
- イ 家具類の転倒・落下・移動防止対策について住宅の形態別にみると、「一戸建て」（約3割）に比べ「集合住宅」の方が約6ポイント低く、所有形態別では、「持家」（3割強）に比べ「借家」の方が14ポイント低くなっている。
- ウ 約7割を占めている【少ない・行っていない】（「対策をしている家具類は少ない」＋「対策を行っていない」）の理由は、「面倒である」が3割台半ば超で、前回から8.5ポイント増加しており、次いで、「（賃貸のため）勝手に取り付けられない」が2割強となっている。
- エ 家具類の転倒・落下・移動防止対策で「対策を行っていない」（3割強）に絞ってみると、7年前から3年前の3割台後半に比べると低い水準になっているとはいえ、人命にも係わることを考えれば、対策を講じていない世帯が3割強というのは高いと考える必要がある。対策の実施率が低く、実施に制約がある「集合住宅」や「借家」において、万が一の際の被害を最小限にするため、危険度の高い家具から対策を講じていくことや、「面倒である」「方法が分からない」という人に対する対策事例の紹介やPRなどが特に必要と考える。

(4) <場所>の認知は【避難場所】が3割台半ばで最高、<意味>の認知は【第一次避難場所】の1割台半ばが最低

ア 前回調査と比較して、3種の避難場所すべてで<場所>より<意味>の認知度が低くなっている点は変わらないが、<場所>の認知度に大きな変動はないことに対し、<意味>の認知度がそれぞれ5ポイント以上減少している。

イ <意味>の認知の低さは、避難行動の流れに大きく影響することから、【3種の避難場所】の<意味>と<場所>のつながりを強調した周知が、より必要と考える。

(5) 大規模災害時の避難生活場所は「避難所」が5割弱、「別居している家族や親戚の家」が2割台半ば

大規模災害時の避難生活場所「避難所」(48.9%)が5割弱で最も高く、次いで、「別居している家族や親戚の家」(26.6%)であった。結果、大規模災害時に自宅に住めなくなった場合に避難生活を送る場所として区民の半数が「避難所」を想定していることがうかがえる。この傾向は、前々回調査から同様の割合となっている。

3 洪水対策

(1) 「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」を【見たことがある】は9割

ア 「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認識度が高い「見て、自宅の浸水深を確認した」(32.0%)と「見て、内容は確認した」(22.5%)はともに微減したものの、「見たが、内容までは覚えていない」(35.5%)を合わせた【見たことがある】は前回調査から引き続いて9割を維持した。

イ 前回調査に比べて【見たことがある】の割合は変わらないものの、認識度が高い「見て、自宅の浸水深を確認した」と「見て、内容は確認した」が微減していることから、「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の存在の区民への周知もさることながら、自宅の浸水深の確認など、起こり得る水害への理解をより深めてもらうことも重要である。

(2) 河川はん濫時の避難場所を事前に決めている人は7割弱

河川がはん濫する恐れがある場合の避難場所を事前に「決めている」人は7割弱を占めているものの、前回調査に比べ3.1ポイント減少した。

(3) 事前に決めている河川はん濫時の避難場所は6割強が「自宅にとどまる」と回答

事前に決めている避難場所は、「自宅にとどまる（自宅内の高い階への移動を含む）」が6割強を占め、次点の「近隣の小・中学校など区が開設する水害時の避難所」の2割台半ば近くを大きく上回っている。

(4) 河川はん濫時の避難場所を決めていない理由は「避難する場所がわからないから」が5割近く

ア 避難場所を事前に「決めていない」(約3割)の主な理由は「避難する場所がわからないから」が5割近くで最も多く、次いで「河川のはん濫は起こらないと思っているから」が1割台半ばとなっている。

イ 河川のはん濫リスクは地域別で違いはあるものの、「河川はん濫時の避難場所を事前に決めていない」が最も低い第3地域(20.5%)と最も高い第11地域(42.1%)で20ポイント以上の差があり、また、河川はん濫時の避難場所を決めていない理由として「避難する場所がわからないから」が最も低い第8地域(30.0%)と最も高い第15地域(61.1%)で30ポイント以上の差があることから、各地域の状況を踏まえたうえで、混乱のない避難誘導の浸透を推し進めていく必要がある。

4 区の情報発信のあり方

(1) 区の情報入手手段として、「あだち広報」が約7割、次いで「トキメキ」が3割台半ば

ア 区に関する情報の入手手段としては、「あだち広報」が約7割で、依然として他の媒体に比べて高くなっており、これに次ぐ「トキメキ」(33.8%)、「町会・自治会の掲示板・回覧板」(22.9%)などとの間には大きな差がある。

イ 「あだち広報」「トキメキ」「町会・自治会の掲示板・回覧板」などの紙媒体は、年代が上がるほど割合が高くなり、「区のホームページ」「Aメール」などのICTを活用した媒体は壮年期で割合が高くなっている。

(2) 重要と考える区の情報、「健康や福祉」が6割台半ば、「災害や気象」が6割弱

ア 区が発信する情報で重要と考えるのは、「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」が6割台半ばで最も高く、次いで「災害や気象に関する情報」(6割弱)、「国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報」(5割強)、「ごみ・リサイクルなど環境に関する情報」(4割台半ば)の順となっており、前回調査から上位項目の順位に変動はない。

イ 重要と考える区の情報を性・年代別にみると、「健診や生活支援など健康や福祉に関する情報」は男性の60代以上と女性の40・50・60代で7割以上と高く、「災害や気象に関する情報」は女性の40代と60代で7割台と高くなっている。また、「イベントやスポーツ施設、図書館など生涯学習や余暇活動に関する情報」は男性の40代で4割台、「出産や育児、就学など子どもや教育に関する情報」は女性の30代で6割台と特に高くなっている。

(3) 必要な時に必要とする区の情報「得られている」が7割台半ば

ア 区の情報「必要なときに得られているか」を聞いたところ、【得られている】(「十分に得られている」+「ある程度得られている」)が7割台半ば、一方、【得られない】(「得られないことが多い」+「まったく得られない」)は1割強となっており、この3年間で大きな違いは見られない。

イ 性・年代別に見ると、【得られている】は男女ともに18～29歳で4割台半ばから5割台半ばと低く、一方、18～29歳の男女は「必要と思ったことがない」(男性：22.0%、女性：13.9%)と「区の情報に関心がない」(男性：22.0%、女性：16.8%)で他の性・年代層に比べて特に高くなっている。

(4) 区の情報得られない理由は「情報の探し方がわからない」が3割台半ば

必要な時に必要とする区の情報【得られない】と答えた理由としては、「情報の探し方がわからない」が37.4%と最も高く、「情報が探しにくい」(26.4%)と合わせると6割台半ばを占めており、この割合が3年連続で増加していることから、情報の探しやすさについて、なお一層の工夫が必要である。

5 健康

(1) 区のキャッチフレーズを【知っている】は4割台半ばで最高値を更新

ア 『あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～』について、「内容まで知っている」が1割台半ばで、これに「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」（3割強）を合わせた【知っている】は4割台半ばとなったものの、「知らない（初めて聞いた）」（5割強）を下回っている。

イ キャッチフレーズの認知度を経年でみると、【知っている】は前回調査から3.6ポイント増加し、平成28年度調査の本設問開始以降で最も高い割合となった。

ウ キャッチフレーズの認知度を性別でみると、【知っている】は女性（52.4%）の方が男性（35.6%）より16.8ポイントと大きく上回っている。

エ 性・年代別でみると、【知っている】は女性の30代以上のすべての年代と男性の70歳以上で5割台と高く、それ以外の年代層は3割前後となっており、はっきりと2層に分かれている。

(2) 野菜から「食べている」人は6割台半ばで変わらず

ア 糖尿病の予防には、“食事の最初に野菜をよくかんで食べることが効果的である”とされていることに対し、「（野菜から）食べている」人は6割台半ば、「食べていない」人は2割台半ばとなっている。

イ 「（野菜から）食べている」人の割合、野菜の摂取量については、前回調査から数値に大きな変動はみられない。

ウ 性別でみると、「（野菜から）食べている」は女性（69.5%）の方が男性（61.7%）より7.8ポイント高くなっている。

(3) 1日野菜350g以上の摂取は「できている」が4割強

ア 野菜の摂取量については、“1日350g以上”が目標とされており、実際に【できている】（「できている」＋「だいたいできている」）は4割強となっている。

イ 性別でみると、【（野菜の1日350g以上の摂取が）できている】は女性（44.2%）の方が男性（38.3%）より5.9ポイント高くなっている。

ウ 「（野菜から）食べている」と【（野菜の1日350g以上の摂取が）できている】については、すべての年代層で男性より女性の方が予防行動ができていることから、糖尿病の予防に対する知識の浸透・周知は、より男性にも届くような展開が重要である。

(4) 自分は「健康である」と自認している人は前回から4ポイント減少し6割台半ば

ア 自身の健康状態への認識は、「健康な方だと思う」が6割弱を占めており、「非常に健康だと思う」（4.1%）を合わせた【健康である】は6割台半ばとなっている。一方、【健康ではない】（「あまり健康ではない」＋「健康ではない」）と感じている人は3割台半ばとなっている。

イ 前回調査と比較すると、【健康である】は4ポイント減少している。

ウ 性別では特に違いはないが、性・年代別に見ると、【健康である】は、30代以下では男性の方が高く、40代以上では女性の方が高くなっている。

(5) この一年間の受けたがん検診の受診率は4割台半ば、種類別では「大腸がん検診」が2割強

ア この一年間のがん検診の受診状況は、「受けた」が43.7%で、「受けていない」が46.5%となっている。

イ 受診したがん検診の種類は、「大腸がん検診」が2割強で最多となっており、次いで「胃がん検診」、「乳がん検診」、「子宮頸がん検診」（ともに1割台半ば）などとなっている。

(6) 【かかりつけ歯科医院を決めている】人は8割台半ば、治療以外で受けている内容は「歯石除去・歯面清掃」と「定期健診（年1回以上）」が3割台半ば

ア「かかりつけ歯科医を決めている」は8割台半ばで、「かかりつけ歯科医を決めていない」は1割台半ばとなっている。

イ 治療や入れ歯の作成・修理などのほかに受けているものは、「歯石除去・歯面清掃」が37.4%、「定期健診（年1回以上）」が36.0%となっている。一方、「特にない」は32.0%となっている。

(7) 「ゲートキーパー」という言葉を【知っている】は2割近くで、「知らない（初めて聞いた）」が約8割

ア「ゲートキーパー」という言葉の認知状況は、「内容まで知っている」が3.9%、「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」が14.7%で、これらを合わせた【知っている】は18.6%となっている。

イ 経年で見ると、【知っている】は前回調査との比較では大きな違いは見られないものの、設問を開始した令和元年度調査（14.1%）から漸増傾向が続いている。人々の孤独・孤立化については、国でも2021年に孤独・孤立対策担当室が設置されるなど、非常に注視されていることから、「ゲートキーパー」の認知率を向上させる取り組みが重要となっている。

6 スポーツ・読書

(1) 「運動・スポーツはしていない」は約4割、「30分以上の運動を週2回以上」は2割強

日常的な運動・スポーツの実施状況をみると、「30分以上の運動を週2回以上」が2割強で、以下「年に数回（時間は問わない）」までを含めた【運動している】は5割台半ばで、「運動・スポーツはしていない」は約4割となっており、前回調査と特に大きな違いはみられない。

(2) 継続的に実施している運動・スポーツは「ウォーキング」が5割で突出

ア【運動している】と回答した人が、継続的に実施している運動・スポーツは、「ウォーキング」が5割で最も高く、これに「健康体操（エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど）」と「筋力トレーニング」が2割強と続いている。

イ 継続的に実施している運動・スポーツを性・年代別にみると、「ウォーキング」は男性の18～29歳以外のすべての性・年齢層で4割以上となっている。「筋力トレーニング」は男性の方が女性より約10ポイント高く、男性の40代以下で4割台と高くなっている。「健康体操」は女性の方が男性より約15ポイント高く、女性の60代で3割台半ばと最も高くなっている。

(3) 運動・スポーツを最も多く行っている場所は「自宅周辺」が約5割

運動・スポーツを最も多く行っている場所については、「自宅周辺」（約5割）が最も高く、次いで「自宅」（1割台半ば）となっている。

(4) 運動していない人が運動・スポーツを行うためのきっかけは、「身近な場所で運動・スポーツができる」が3割台半ば、次いで「手頃な価格で施設を利用できる」が3割近く

ア 日常的に「運動・スポーツをしていない」人が、運動・スポーツを行いたいと思うきっかけとなるのは、「身近な場所で運動・スポーツができる」（3割台半ば）、「手頃な価格で施設を利用できる」（3割弱）、「レベルを気にせず参加できる機会がある」（約2割）が上位3項目となっている。

イ 運動・スポーツを行うきっかけを性別でみると、前述の上位3項目については、男性より女性の方が高くなっている。

ウ 運動・スポーツを行うきっかけを性・年代別にみると、「身近な場所で運動・スポーツができる」は女性の30代が、「手頃な価格で施設を利用できる」は男性の30代が、それぞれ5割台半ばで最も高くなっている。

(5) 過去1年間に関わった運動・スポーツを支える活動で、「活動しなかった」が7割台半ば、「活動したかったが、する機会がなかった」が6.9%

過去1年間に関わった運動・スポーツを支える活動の有無を聴いたところ、「活動しなかった」が7割台半ばを占め、「活動したかったが、する機会がなかった」が6.9%、【何らかの支える活動をした】は1割強にとどまった。

(6) 区のスポーツ施設における高齢者免除制度は「現行のまま継続すべき」が4割台半ば

区の温水プールやスポーツ施設を高齢者が無料で使用できる制度については、34.3%が【何らかの制度改正を望んでいる】ものの、「現行のまま継続すべき」が43.5%で主流となっている。

(7) 最近1か月間に読書に関わる行動があった人は8割強、行動内容は「本を読む」が4割強

ア 最近1か月間の読書に関わる行動状況は、【読書に関わる行動あり】が82.4%で前回調査とほぼ同じ割合となっている。

イ 行動内容では、上位5位の「本を読む」（42.1%）、「新聞を読む」（41.0%）、「雑誌を読む」（35.8%）、「漫画（アニメ）を読む」（34.6%）、「書店・古書店に行く」（29.2%）の順位は変わらないが、「本」「新聞」「雑誌」が減少し、「漫画（アニメ）」が増加している。

7 ビューティフル・ウィンドウズ運動

(1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」を【知っている】が4割超、「知らない（初めて聞いた）」が5割台半ば

ア 足立区独自の犯罪抑止運動である『ビューティフル・ウィンドウズ運動』については、【知っている】（「知っていて、活動を実践している」＋「知っているが、特に何も行っていない」＋「名前は聞いたことはあるが、内容はわからない」）が43.1%となっている。

イ 設問開始からの10年を見ると、【知っている】はわずかな増減を繰り返しつつ4割台で推移しており、「知らない（初めて聞いた）」の5割台を上回ることがなく、膠着状態に陥っている。

ウ 『ビューティフル・ウィンドウズ運動』に関する取り組みに「参加していない（今後も参加しない）」（61.3%）は前回調査から5.1ポイント減少したものの6割台を占めている。

エ 現在参加している、もしくは今後参加したい取り組みでは、今回調査で新設の「ながら見守り活動」が1位、同様に新設の「不法投棄通報」が4位と上位に入っている。

オ 性・年代別でみると、「ながら見守り活動」は女性の40代で18.5%と最も高く、「まちの清掃活動」と「花の育成活動」はともに女性の60代（15.0%・15.8%）で最も高くなっている。一方、「参加していない（今後も参加しない）」は、男女ともにおおむね年代が下がるほど割合が高くなり、女性の18～29歳（71.3%）で7割台と最も高くなっている。

(2) 居住地域の治安状況が【良い】は5ポイント減少し再び5割台となる

ア 居住地域の治安状況については、【良い】（「良い」＋「どちらかといえば良い」）が順調に増加を続けていたが、令和4年の刑法犯認知件数が5年ぶりに増加し、今回令和5年度調査結果も5ポイント減少し再び5割台となった。

イ 治安状況が【悪い】について地域別にみると、1割台と低い地域がある一方で、4割弱と高い地域もあり、地域差がみられる。

ウ 治安が【良い】と評価した理由としては、「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」が51.9%で最も高く、割合に増減はあるものの上位項目に順位の変動はない。割合の減少が最も大きいのは、「犯罪の発生件数が減っているということを知ったから」が10.5ポイントの減少となっている。

エ 治安が【悪い】と感じる理由としては、今回調査で新設された「自転車の交通ルールを守らない人や放置自転車を見かけることが多いから」（43.2%）が最も高く、次ぐ2位にも同様に新設の「歩きたばこやごみのポイ捨て等を見かけることが多いから」（39.6%）が続いた。回答が2選択肢以内という制限があった関係か、既存の項目は軒並み割合が減少した。

(3) 治安対策として区に力を入れてほしいことは、「防犯カメラなど防犯設備の設置」が5割

治安対策として足立区に特に力を入れてほしいことは、「防犯カメラなど防犯設備の設置に対する支援」が50.8%で最も高く、次いで「街路灯など安全に配慮した道路、公園の整備」（45.6%）、「安全・安心パトロールカー（青パト車）による防犯パトロール」（30.7%）など順位に変動はない。

8 環境・地域活動

(1) 環境のために心がけていることは「ごみと資源の分別」が8割台半ば、次いで「不要なレジ袋を断る」が7割台半ば

ア 環境のために心がけていることでは、「ごみと資源の分別を実行している」(84.4%)が今回も最も高く、平成26年以降8割台半ばから9割弱の間で推移している。次いで「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」(74.8%)、「雑紙を燃やすごみではなく、資源として出している」(54.0%)、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」(51.1%)、「外食時に食べられる分だけ注文する」(48.4%)までが上位5位となっている。

イ 環境のために心がけていることについて、SDGsの認知度別にみると、上位8項目中6項目で認知度合いが高いほど割合が高い比例関係にある。

ウ 環境のために心がけていることについて、SDGsの関心度別にみると、上位8項目すべてで関心度合いが高いほど割合が高い比例関係にある。その度合いは認知度よりも関心度との相関関係が強く表れている。

(2) 環境への影響を考えた行動は【行動している】が前回から約10ポイント減少し7割弱

ア 環境への影響を考えた日頃からの行動については、「行動している」が18.7%で、「行動することが時々ある」(49.6%)を合わせた【行動している】は前回調査から9.7ポイント減少し7割弱となった。

イ 環境への影響を考えた行動を性・年代別でみると、【行動している】は男性の40代以下と女性の50代以下で7割台と高くなっている。

(3) 町会・自治会について、「加入している」は5割強、「活動に参加したことがある」は4割弱

ア 自分の住所地に該当する町会・自治会を「知っている」は6割台半ば、町会・自治会に「加入している」は5割強、町会・自治会の「活動を知っている」は約5割、町会・自治会の「活動に参加したことがある」は4割弱となっている。

イ 町会・自治会に加入していない理由は、「加入する必要性を感じないから」が2割台半ばで最も高く、次いで、「人間関係がわずらわしいから」が1割台半ば、「加入の方法がわからないから」と「誘われないから」が1割強となっている。

ウ 前回の令和3年度調査と比較すると、すべての認知・加入状況の割合が3～6ポイント減少している。

(4) この1年間に参加した活動は、「特に参加していない・特にない」が5割半ば近くに微増も、催しやサークル活動などの外出型活動が増加

ア この1年間の活動への参加状況は、「特に参加していない・特にない」の53.2%に対し、【この1年間に参加した活動がある】は28.1%と大きく下回っている。

イ この1年間の活動への参加状況を前回調査と比べると、「区内・区外を問わず、講演会や講座、サークル活動など」(+3.5ポイント)や「区内・区外を問わず、文化施設や催しで音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会」(+3.1ポイント)などの外出型活動が3ポイント以上増加している。

ウ この1年間に参加した活動(現状)と、引き続き、または今後参加したいと思う活動(参加意向)の割合を比較すると、下記のとおり①の自宅周辺型活動に比べて、②と③の外出型活動の増加が大きくなっている。

①「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、緑を増やしたり、育てる取り組み」

(現状16.5%→参加意向17.5%・1.0ポイント増加)

②「区内・区外を問わず、文化施設や催しで音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会」

(現状18.2%→参加意向27.8%・9.6ポイント増加)

③「区内・区外を問わず、講演会や講座、サークル活動など」

(現状8.5%→参加意向14.5%・6.0ポイント増加)

9 「孤立ゼロプロジェクト」など

- (1) 「孤立ゼロプロジェクト」を【知っている】は2割台半ば、「知らない」が約7割で変化なし
- ア 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況は、【知っている】（「知っていて、内容もおおむね理解している」(8.0%) + 「聞いたことはあるが、内容はわからない」(18.5%)）が26.4%となっており、多少の増減はあるものの、平成25年の設問開始から大きな変化は見られない。
- イ 【知っている】を地域別でみると、第3地域で4割弱と最も高く、逆に第15地域で1割と、地域差がかなり大きくなっている。
- ウ 【知っている】を性・年代別でみると、男女ともおおむね年齢が下がるほど割合も低くなり女性の18～29歳で1割未満と最も低くなっている。
- (2) 「地域包括支援センター」について、【業務内容を知っている】は4割台半ば近く
- ア 地域包括支援センター（ホウカツ）の認知状況は、【業務内容を知っている】は43.3%、「地域包括支援センター（ホウカツ）は知っているが、業務内容は知らない」が16.9%、「地域包括支援センターを知らない」は35.6%となっている。
- イ 知っている地域包括支援センターの業務内容は、「高齢者の健康や介護の相談」が3割台後半で最も高く、次いで「介護保険サービスの相談」(28.9%)、「高齢者宅への訪問調査」(23.0%)、「介護予防教室や地域の居場所等の紹介」(20.2%) などとなっている。
- ウ 【業務内容を知っている】を地域別でみると、第8地域で5割と最も高く、第2地域で3割強と最も低く、約20ポイントの違いがある。
- エ 【業務内容を知っている】を性・年代別でみると、女性の方が男性より約16ポイント高く、おおむね年代が上がるほど割合も高くなり、女性の60代以上で6割台半ばと高くなっている。
- (3) 高齢者の孤立防止や見守り活動に「協力したい」は約2割、「協力できない」は4割超
- ア 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向は、【協力したい】は約2割で前回調査から変化はないが、【協力できない】は3.6ポイント減少した。
- イ 性・年代別でみると、【協力したい】は男性の60代(34.0%)で最も高く、男性の50代(11.3%)で最も低くなっている。この極端な違いは、「協力したいが、時間などに余裕がない」(50代：37.3%・60代：20.2%)の割合の差によるもので、男性の60代は就業状況によって考え方に大きな変化があることがうかがえる。
- (4) 「フレイル」を予防する活動を【知っている】は5割台半ば近くで変化なし
- ア 「フレイル」にならないために「運動」「口の健康・栄養」「社会参加」のそれぞれが大切なことの認知状況については、「知っていて、活動を実践している」が15.8%で、これに「知っているが、特に何もしていない」(37.7%)を合わせた【知っている】(53.5%)は5割台半ば近くとなり、本質問を開始した令和2年からの大きな変動はない。
- イ 性・年代別にみると、【知っている】は女性の方が男性より約10ポイント高く、女性の60代が約7割で最も高くなっている。
- (5) 就業者における仕事と仕事以外の生活の調和が「取れている」が3割台半ば、「取れていない」と「わからない」が1割台半ば超、一方、「仕事をしていない」は2割台半ば
- ア 就業者における仕事と仕事以外の生活の調和について、調和が「取れている」が34.8%で、「取れていない」(17.8%)を上回っている。一方、「わからない」が17.4%であった。
- イ 就業している方を100%として比較し、調和が【取れていない】を性・年代別でみると、男女とも18～29歳で3割台と他の性・年代層に比べて高くなっている。

(6) 言葉の「内容まで知っている」は「身体的暴力以外のDV」が6割台半ば、「LGBT」が6割弱

ア「内容まで知っている」は、「身体的暴力以外のDV」が63.7%、「LGBT」が58.0%となっている。

イ「内容まで知っている」を前回調査と比較すると、「身体的暴力以外のDV」は前回調査(48.9%)から14.8ポイント、「LGBT」は前回調査(47.1%)から10.9ポイントと、ともに大幅に認知度が上昇しており、この1年間で2つの言葉の浸透が進んだことがうかがえる。

ウ「内容まで知っている」を性別にみると、「身体的暴力以外のDV」は女性(66.4%)の方が男性(60.0%)より6.4ポイント高くなっている。また、「内容まで知っている」を性・年代別で見ると、「身体的暴力以外のDV」は女性の18～29歳、「LGBT」は男性の18～29歳、女性の18～29歳と30代でそれぞれ8割台と高く、年齢が下がるほどおおむね割合が高くなっている。

10 「協働・協創」・「SDGs」

(1) 「協創」の認知度は調査開始以降1割台で漸増し、前回調査で2割台、今回3割へと上昇

「協創」について、「知っている」は10.9%で、これに「聞いたことはある」(19.9%)を合わせた【知っている】は30.8%で、前回(28.7%)から微増ではあるものの初めて3割台となった。

(2) “協働”“協創”の実践は、「すでに、活動を実践している」が6.3ポイント増加し2割超

ア「協創」を知っていると回答した人に、協働・協創の実践状況を聞いたところ、「すでに、活動を実践している」(21.3%)が前回調査(15.0%)から6.3ポイント増加したものの、設問を開始した平成29年と平成30年の3割台には及ばない。

イ「協創」の認知度は向上したものの、協働・協創の実践に至っていない状況と言える。新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、今後は行動の実践が上昇すると考えられるが、この機に乗じて、ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクトなどの具体的な活動に結びつく動機づけが重要である。

(3) SDGsの認知状況は、【知っている】が7割台半ば超と上昇

ア SDGsの認知については、「内容まで知っている」が34.5%となっている。「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」が43.4%で最も高く、これらを合わせた【知っている】は7割台半ば超となっている。一方、「知らない(初めて聞いた)」が19.1%となっている。

イ SDGsの認知度を前回調査と比較すると、「内容まで知っている」は、前回調査(28.0%)から6.5ポイント増加し、「知らない(初めて聞いた)」は5.5ポイント減少している。

ウ SDGsの認知度を性別でみると、「内容まで知っている」は、男性(37.3%)の方が女性(32.5%)より4.8ポイント高くなっている。また、性・年代別でみると、男女ともに年代が下がるほど割合が高くなり、男性の18~29歳で6割強と最も高くなっている。

(4) SDGsに【関心がある】が3割台半ば、【関心がない】が3割強

ア SDGsへの関心状況については、「関心がある」が30.0%で最も高く、これに「とても関心がある」(6.2%)を合わせた【関心がある】は3割台半ばとなっている。一方、SDGsに「あまり関心がない」(24.1%)と「全く関心がない」(7.8%)を合わせた【関心がない】は3割強となっている。

イ SDGsへの関心状況を性別でみると、【関心がある】は、女性(37.5%)の方が男性(34.4%)より3.1ポイント高く、【関心がない】は、男性(38.0%)の方が女性(27.2%)より10.8ポイント高くなっている。

ウ SDGsへの関心状況を性・年代別でみると、【関心がない】は、男性の30代で5割強と最も高く、女性の40代以上の各年齢層で2割台と低くなっている。

11 区の取り組み

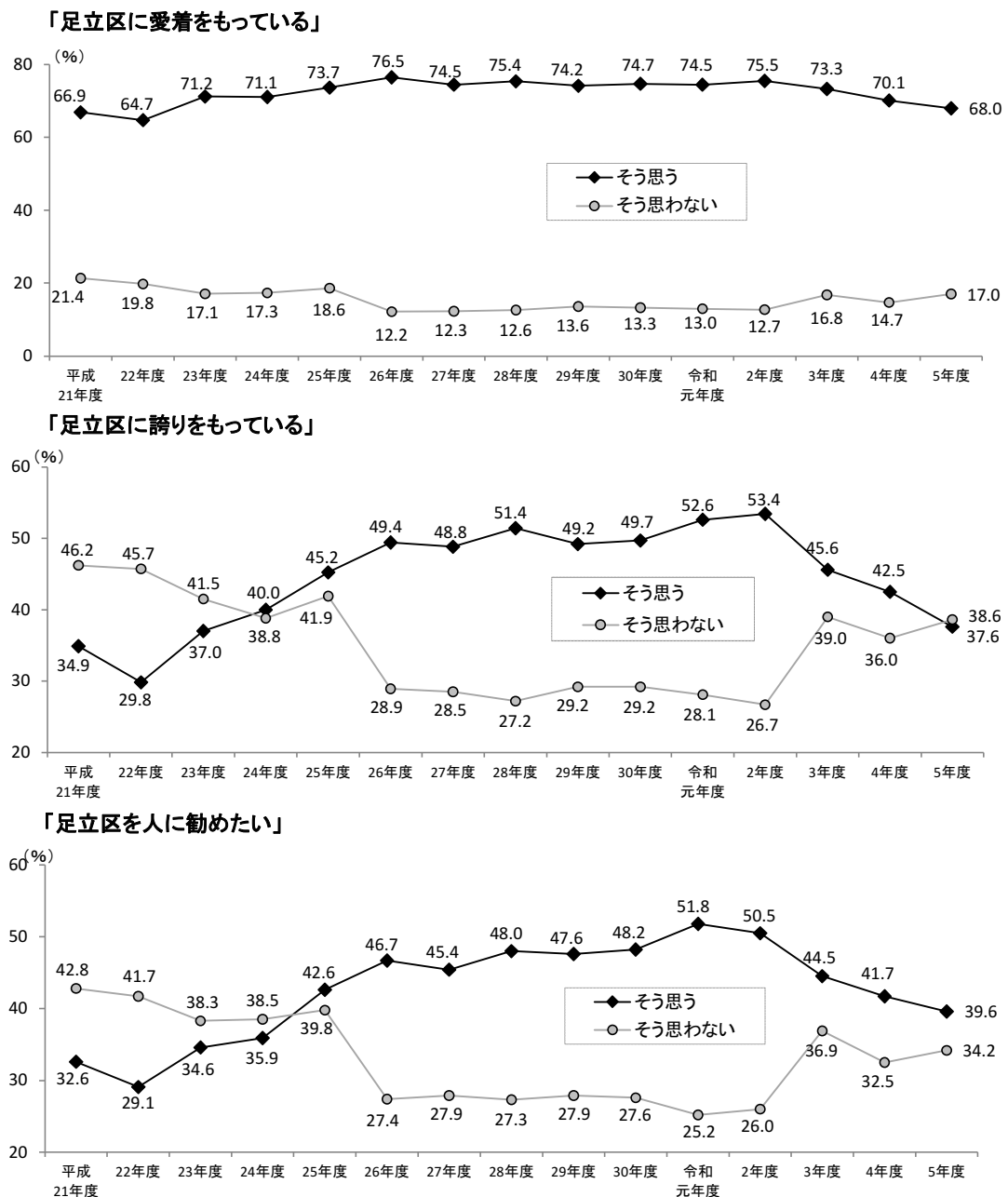
(1) 「足立区に愛着」と「足立区を良いまちにする活動をする人に共感」がともに約7割

ア 平成21年調査から今回の令和5年度調査まで15年わたって経年で聴取している〈足立区に愛着をもっている〉〈足立区に誇りをもっている〉〈足立区を人に勧めたい〉の3項目について、今回の結果を【**そう思う**】（「**そう思う**」＋「**どちらかといえば**そう思う****」）の比率で見ると、〈足立区に愛着をもっている〉は68.0%、〈足立区に誇りをもっている〉は37.6%、〈足立区を人に勧めたい〉は39.6%となっている。

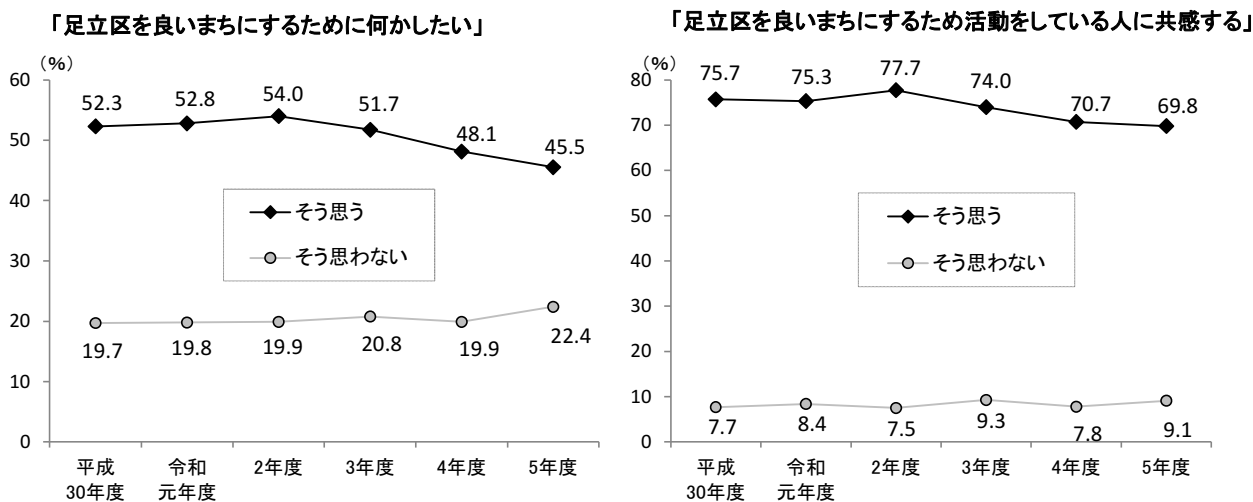
イ 経年でみると、【**そう思う**】は前述の3項目とも前回から2～5ポイント減少しており、ともに、この3年間は減少を続けている。

ウ 特に〈足立区に誇りをもっている〉は4.9ポイント減少し、【**そう思わない**】（38.6%）を下回った。

エ 居住年数別でみると、【**そう思う**】は〈足立区に愛着をもっている〉と〈足立区に誇りをもっている〉は居住年数が長くなるほど割合が高くなる正の相関がみられるが、足立区に誇りをもっている〉については、どの居住年数別でも4割前後と差がない。



オ 平成30年調査から新たに聴取項目に加えた〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉と〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉の2項目について、【**そう思う**】をみると、それぞれ45.5%と69.8%と、前回調査から微減しており、逆に【**そう思わない**】はそれぞれ微増となっている。



(2) 区を良いまちにするための行動については、【**行動しなかった**】が6割台半ばで、【**行動した**】の2割台半ばを大きく上回る

ア この1年間に「行動しなかった」が46.4%と最も高く、「どちらかといえば行動していない」(17.6%)を合わせた【**行動しなかった**】は64.0%となっている。

イ 「行動した」は9.6%に留まり、「どちらかといえば行動した」(14.9%)を合わせた【**行動した**】は24.6%となっている。

ウ 前回の令和4年度調査と比べてみると、【**行動しなかった**】は4.4ポイントの増加となっている。

エ 区を良いまちにするための行動を区政満足度別にみると、満足度が高まるにつれて【**行動した**】の割合は増加し、『区政満足度』で〈不満〉と回答した層では【**行動した**】は13.0%に留まり、【**行動しなかった**】は74.1%を占めている。『区政満足度』で〈満足〉と回答した層では【**行動した**】は36.2%となっている。

(3) 区の取り組みで満足している分野は、「情報提供」が4割弱で最上位、次いで「自然・緑化対策」が3割超

ア 21分野の区の取り組みで、満足・やや満足と感じている分野について、数を制限しないで選んでいただいた。その結果、「情報提供」が38.0%と最も高く、次いで、「自然・緑化対策」(31.2%)、「保健衛生対策」(26.9%)、「高齢者支援」(20.1%)、「職員の接客態度」(19.9%)などとなっている。

イ 区の取り組みで満足している分野について、性別でみたときに、男女で3ポイント以上差がある取り組み

- a 男性の方が女性より3ポイント以上高い取り組み
「自然・緑化対策」(+3.8ポイント)、「防災対策」(+3.2ポイント)
- b 女性の方が男性より3ポイント以上高い取り組み
「保健衛生対策」(+9.3ポイント)、「子育て支援」(+4.5ポイント)、「治安対策」(+4.3ポイント)、「高齢者支援」(+3.8ポイント)

(4) 区の取り組みで不満な分野は、「交通対策」が2割で最上位、次いで「都市開発」が1割超

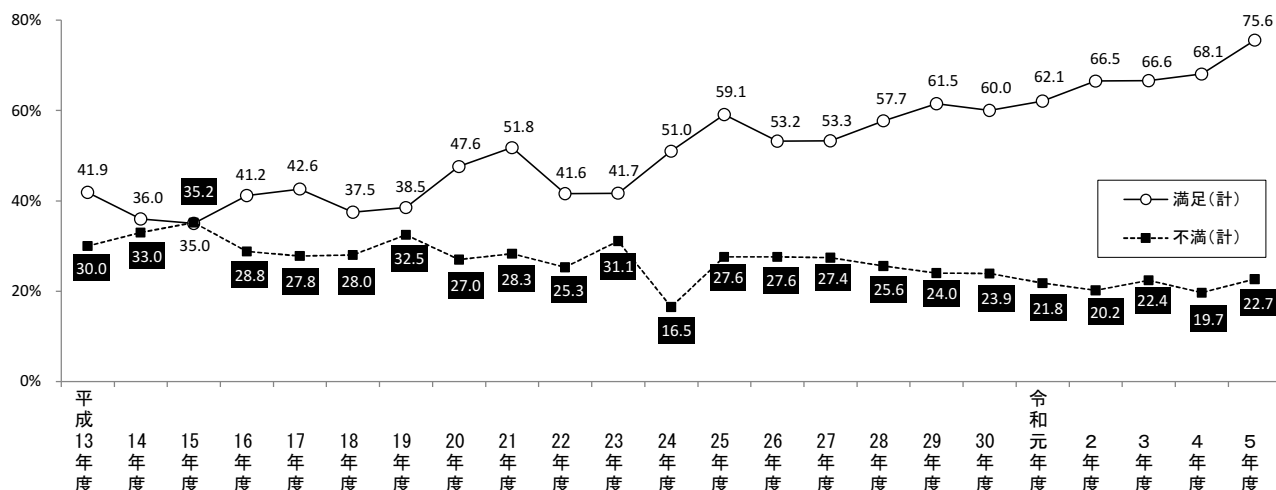
ア 21分野の区の取り組みで、不満・やや不満と感じている分野について、数を制限しないで選んでいただいた。その結果、「交通対策」が20.8%と最も高く、次いで、「都市開発」(11.6%)、「自然・緑化対策」と「住環境対策」(各10.3%)、「高齢者支援」(10.1%)、「低所得者支援」(9.8%) などとなっている。

イ 区の取り組みで不満な分野について、性別で見ると、区の取り組みで満足の分野に比べ、男女の差が小さい。

- a 男性の方が女性より2ポイント以上高い取り組み
「情報提供」(+2.1ポイント)
- b 女性の方が男性より2ポイント以上高い取り組み
「職員の接客態度」、「子育て支援」(ともに+2.3ポイント)

(5) 区政全体について【満足】は7割台半ばで、平成25年の設問開始以降で最高値となる

ア 区政全体について、「やや満足」が63.7%と最も高く、「満足」(11.9%)を合わせた【満足】は75.6%となり、本設問を開始した平成25年以降で最も高い割合となっている。



※ 平成25年度以降は選択肢が現行の4選択肢(「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」)であるが、平成24年度までは「わからない」が加わった5選択肢のため、単純に比較はできないが参考として掲載している。

イ 地域別で見ると、【満足】は第6地域で82.0%と最も高く、次いで、第4地域(81.1%)、第1地域(80.8%)などとなっている。一方、【不満】は第10地域で30.9%と最も高く、次いで、第13地域(30.3%)、第15地域(29.3%)などとなっている。

ウ 性・年代別にみると、【満足】は、男性の50代で82.4%と最も高く、次いで、男性の70歳以上(80.0%)、女性の70歳以上(79.6%)が続いている。一方、【不満】は女性の18~29歳で30.7%と最も高く、次いで、男性の40代(28.9%)となっている。

(6) 今後特に力を入れてほしい分野は、「交通対策」が3割半ばで最上位、次いで「高齢者支援」が3割超で続く

ア 21分野の区の取り組みのうち、今後特に力を入れてほしい分野について、数を制限しないで選んでいただいた。その結果「交通対策」が33.9%と最も高く、次いで、「高齢者支援」(31.6%)、「防災対策」(29.1%)、「自然・緑化対策」(24.4%)、「都市開発」(23.5%)などとなっている。

イ 地域別でみると、第7地域は「自然・緑化対策」「都市開発」「産業振興」、第13地域では「住環境対策」「治安対策」「子育て支援」、第14地域では「交通対策」「障がい者支援」「資源環境対策」の3分野でそれぞれ最も高い割合となっている。

ウ 性別で見たときに、21項目中17項目で女性の方が男性より高くなっている。

ア 女性の方が男性より3ポイント以上高い取り組み

「高齢者支援」(+5.1ポイント)、「治安対策」(+3.9ポイント)、「保健衛生対策」(+3.2ポイント)

イ 「特にない」は、男性の方が女性より4.6ポイント高くなっている。

エ 年代別にみて区全体より5ポイント以上高くなっている取り組み

ア 40代は、21項目中最多の9項目で区全体より5ポイント以上高くなっており、特に「交通対策」で10ポイント以上高くなっている。

イ 30代では、4項目で区全体より5ポイント以上高くなっており、特に「子育て支援」と「学校教育対策」の2項目で10ポイント以上高くなっている。

イ 60代、70代ともに、2項目で区全体より5ポイント以上高くなっており、特に「高齢者支援」で10ポイント以上高くなっている。

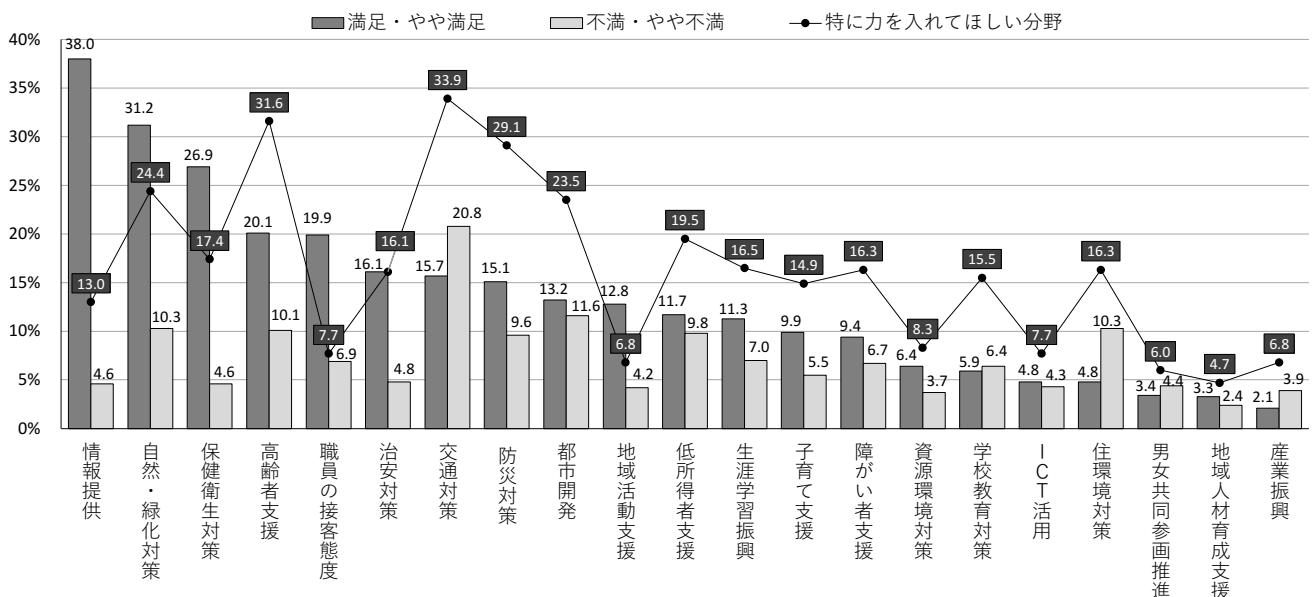
(7) 「満足評価」「不満評価」「注力を期待」の状況から見える、課題となる取り組み

ア 各取り組みに対する、「満足評価」「不満評価」「注力を期待」の状況をみると、下記の取り組みが課題となっている。

イ 「注力を期待」が大きく、「満足評価」より「不満評価」の方が大きいのは、〈交通対策〉

イ 「注力を期待」が大きく、「満足評価」の方が大きいものの「不満評価」と大きな差がないのは、〈都市開発〉〈低所得者支援〉〈防災対策〉

イ 「注力を期待」は中位だが、「満足評価」より「不満評価」の方が大きいのは、〈住環境対策〉

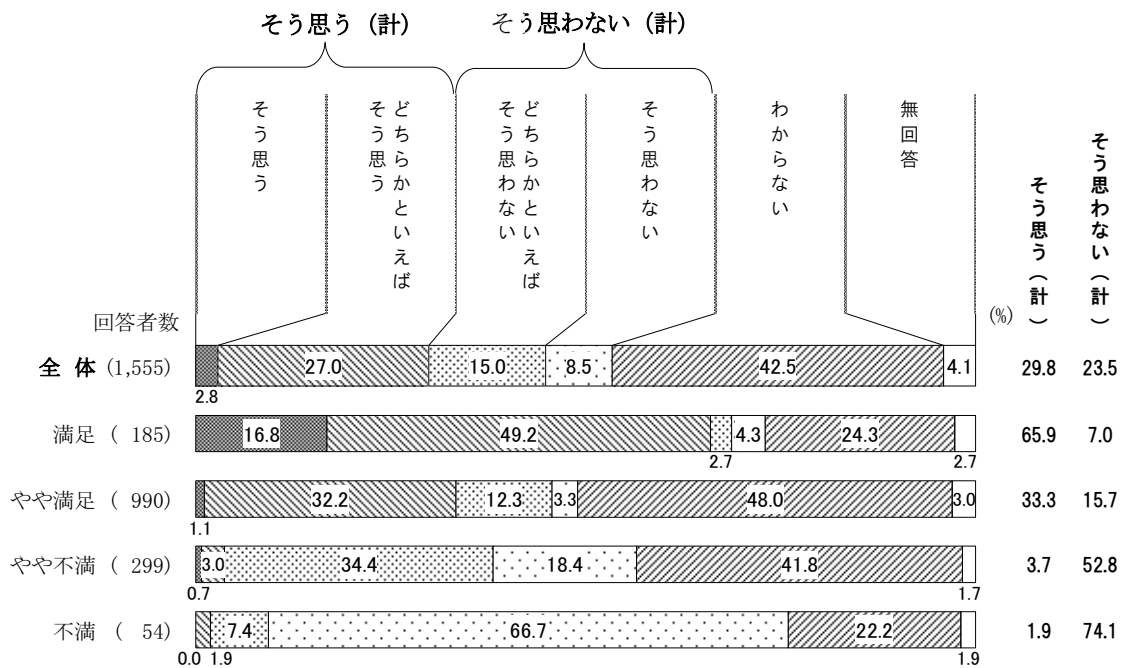


(8) 区政への区民意見の反映について、「そう思う」は7ポイント減少し約3割、「わからない」が8.7ポイント増加し4割台半ば近く

ア 区政に区民の意見が反映されていると感じているか聞いたところ、「そう思う」(2.8%)と「どちらかといえばそう思う」(27.0%)を合わせた【そう思う】は29.8%となり、「どちらかといえばそう思わない」(15.0%)と「そう思わない」(8.5%)を合わせた【そう思わない】(23.5%)を6.3ポイント上回っている。

イ 前回調査と比較してみると、【そう思う】が7.0ポイント減少している。

ウ 区政満足度別で見ると、【そう思う】は、区政への満足度が増すほど割合が高くなり、区政に満足している層で6割台半ばと高くなっている。



区に対する気持ち 経年比較／性・年代別

1 足立区に愛着をもっている

全体	平成27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年
	74.5	75.4	74.2	74.7	74.5	75.5	73.3	70.1	68.0

(%)

男性	平成27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年
18～19歳	—	—	—	—	—	—	68.1	55.2	59.3
20代	82.0	66.7	68.4	74.6	72.5	62.7	—	—	—
30代	67.3	67.7	74.5	65.1	69.5	80.0	56.8	58.2	53.0
40代	76.5	74.8	75.7	77.5	71.7	79.3	74.4	68.3	68.4
50代	73.0	82.1	82.9	76.0	81.6	79.7	78.7	71.8	71.8
60代	77.7	82.6	69.3	81.4	76.9	77.5	78.6	78.4	66.0
70歳以上	76.0	82.4	81.6	76.9	74.5	77.9	76.3	78.1	73.0

女性	平成27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	
18～19歳	—	—	—	—	—	—	—	67.5	54.3	59.4
20代	67.5	66.3	72.5	64.9	59.1	66.3	—	—	—	
30代	69.0	66.7	66.9	74.5	73.7	75.0	72.7	62.3	59.3	
40代	75.1	73.5	73.5	71.0	72.0	74.7	71.9	72.0	66.9	
50代	74.7	75.7	74.0	74.7	79.2	73.2	74.7	72.3	69.7	
60代	77.1	73.9	77.3	72.0	80.0	76.1	70.8	68.5	75.0	
70歳以上	76.5	80.0	74.6	78.1	73.2	76.6	76.9	73.7	72.9	

2 足立区に誇りをもっている

全体	平成27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年
	48.8	51.4	49.2	49.7	52.6	53.4	45.6	42.5	37.6

(%)

男性	平成27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年
18～19歳	—	—	—	—	—	—	43.1	23.9	25.4
20代	54.1	44.9	36.8	50.8	40.6	45.8	—	—	—
30代	37.6	47.5	42.9	31.4	42.7	52.9	30.9	34.3	22.7
40代	48.8	51.9	54.9	51.2	52.5	50.7	41.4	40.0	28.9
50代	47.6	52.7	57.7	51.9	60.5	54.4	48.2	36.3	37.3
60代	52.2	59.7	46.0	54.3	58.7	62.0	53.4	45.9	44.7
70歳以上	63.0	68.2	59.9	62.3	62.8	64.2	61.1	58.7	53.0

女性	平成27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	
18～19歳	—	—	—	—	—	—	—	28.9	31.4	22.8
20代	37.7	33.7	34.8	33.8	40.9	45.7	—	—	—	
30代	40.1	41.5	34.7	41.8	43.2	43.8	29.3	22.8	27.4	
40代	42.8	42.7	47.1	36.6	43.9	50.0	39.5	32.2	37.9	
50代	39.9	45.1	41.6	48.8	51.0	48.0	47.3	41.3	41.1	
60代	51.4	50.3	58.2	44.8	54.2	47.2	35.4	42.5	34.2	
70歳以上	57.7	60.0	55.5	63.9	57.3	61.1	56.0	57.0	44.7	

3 足立区を人に勧めたい

全体	平成27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年
	45.4	48.0	47.6	48.2	51.8	50.5	44.5	41.7	39.6

(%)

男性	平成27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年
18～19歳	—	—	—	—	—	—	40.3	34.3	32.2
20代	44.3	43.6	42.1	59.3	46.4	42.4	—	—	—
30代	36.6	48.5	49.0	47.7	62.2	68.6	34.6	46.3	40.9
40代	51.2	55.6	56.9	51.9	55.0	52.7	51.1	45.8	38.6
50代	49.2	50.9	52.0	53.5	57.8	51.3	51.1	39.5	40.8
60代	48.9	54.2	38.0	50.4	49.6	54.3	48.9	39.6	40.4
70歳以上	54.0	59.1	55.3	53.8	53.2	58.3	51.6	48.8	41.6

女性	平成27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	
18～19歳	—	—	—	—	—	—	—	38.6	40.0	32.7
20代	32.5	41.6	43.5	36.4	43.9	46.7	—	—	—	
30代	41.5	40.0	42.4	48.2	53.4	50.9	48.5	36.8	45.1	
40代	41.3	42.7	47.6	37.2	52.2	52.4	37.1	38.1	41.9	
50代	39.9	47.9	42.2	47.5	55.0	43.0	46.0	37.4	47.4	
60代	45.7	43.0	53.2	44.8	49.2	38.7	36.9	38.6	36.7	
70歳以上	50.0	49.0	47.3	49.8	45.1	52.3	42.1	45.4	34.9	

4 足立区を良いまちにするために何かしたい

全体	平成30年	令和元年	2年	3年	4年	5年
	52.3	52.8	54.0	51.7	48.1	45.5

(%)

男性	平成30年	令和元年	2年	3年	4年	5年
18～19歳	—	—	—	45.8	40.3	39.0
20代	45.8	39.1	44.1			
30代	52.3	56.1	57.1	44.4	47.8	43.9
40代	60.5	57.5	54.0	57.1	55.8	49.1
50代	57.4	58.8	57.0	56.7	50.0	49.3
60代	46.5	47.9	58.1	58.0	45.0	47.9
70歳以上	53.8	56.9	59.8	47.9	46.8	46.5

女性	平成30年	令和元年	2年	3年	4年	5年
18～19歳	—	—	—	54.2	41.4	42.6
20代	41.6	39.4	41.3			
30代	54.5	51.7	58.0	58.6	43.9	48.7
40代	52.5	63.7	58.4	53.9	48.3	50.8
50代	52.5	60.4	53.6	58.7	58.1	49.7
60代	59.4	45.8	49.3	53.8	55.9	45.8
70歳以上	48.5	45.1	49.8	42.9	41.8	37.6

5 足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する

全体	平成30年	令和元年	2年	3年	4年	5年
	75.7	75.3	77.7	74.0	70.7	69.8

(%)

男性	平成30年	令和元年	2年	3年	4年	5年
18～19歳	—	—	—	66.7	59.7	62.7
20代	64.4	59.4	67.8			
30代	76.7	79.3	82.9	61.7	68.7	57.6
40代	76.7	80.0	75.3	78.9	77.5	71.9
50代	78.3	80.3	77.2	72.3	73.4	77.5
60代	75.2	72.7	76.7	80.2	69.4	67.0
70歳以上	74.5	72.9	80.9	66.8	70.1	68.6

女性	平成30年	令和元年	2年	3年	4年	5年
18～19歳	—	—	—	72.3	68.6	66.3
20代	61.0	66.7	66.3			
30代	79.1	71.2	81.3	80.8	67.5	72.6
40代	80.3	80.3	84.3	80.2	66.1	76.6
50代	79.0	83.2	77.7	82.0	81.3	76.0
60代	82.5	75.0	81.7	75.4	78.0	72.5
70歳以上	71.7	72.8	74.1	70.7	65.3	63.1

区政満足度の分析 / 暮らしやすさ / 定住意向 / 情報の入手 / 治安

※各割合(%)は全体(1,555)に対する割合となっています。

1 「地域の暮らしやすさ」と「区政満足度」

全 体	満足	やや満足	やや不満	不満	満足(計)	不満(計)	無回答	(%)
	11.9	63.7	19.2	3.5	75.6	22.7	1.7	
暮らしやすい	6.8	16.4	2.1	0.4	23.2	2.4	0.6	
どちらかといえば暮らしやすい	4.6	40.8	10.3	0.9	45.4	11.2	0.7	
どちらかといえば暮らしにくい	0.1	5.0	5.5	1.7	5.1	7.2	0.2	
暮らしにくい	0.2	0.5	0.8	0.5	0.6	1.4	-	
暮らしやすい(計)	11.4	57.2	12.3	1.3	68.6	13.6	1.3	
暮らしにくい(計)	0.3	5.4	6.4	2.2	5.7	8.6	0.2	

2 「定住意向」と「区政満足度」

全 体	満足	やや満足	やや不満	不満	満足(計)	不満(計)	無回答	(%)
	11.9	63.7	19.2	3.5	75.6	22.7	1.7	
ずっと住み続けたい	7.5	24.1	3.2	0.2	31.6	3.3	0.4	
当分は住み続けたい	3.7	31.1	8.9	1.1	34.9	10.0	0.6	
区外に転出したい	0.1	2.3	2.3	1.0	2.4	3.3	0.1	
わからない	0.3	5.3	4.5	1.2	5.7	5.7	0.4	
定住意向(計)	11.2	55.2	12.1	1.3	66.4	13.4	1.0	

3 「必要なときに必要とする区の情報入手状況」と「区政満足度」

全 体	満足	やや満足	やや不満	不満	満足(計)	不満(計)	無回答	(%)
	11.9	63.7	19.2	3.5	75.6	22.7	1.7	
十分に得られている	1.7	2.6	0.3	0.1	4.3	0.4	0.1	
ある程度得られている	8.2	47.5	11.6	1.4	55.7	12.9	0.6	
得られないことが多い	0.6	4.8	3.3	0.7	5.4	4.1	0.3	
まったく得られない	0.1	0.6	0.5	0.3	0.7	0.8	-	
必要と思ったことがない	0.6	4.1	1.6	0.4	4.7	2.0	0.1	
区の情報に関心がない	0.3	1.9	1.6	0.6	2.2	2.2	0.1	
得られている(計)	9.8	50.2	11.9	1.4	60.0	13.3	0.8	
得られない(計)	0.8	5.3	3.8	1.0	6.1	4.8	0.3	

4 「居住地域の治安状況」と「区政満足度」

全 体	満足	やや満足	やや不満	不満	満足(計)	不満(計)	無回答	(%)
	11.9	63.7	19.2	3.5	75.6	22.7	1.7	
良い	3.2	4.9	0.7	0.1	8.1	0.8	0.2	
どちらかといえば良い	6.2	35.7	7.4	0.6	41.9	8.0	0.5	
どちらかといえば悪い	1.0	13.6	6.7	1.1	14.6	7.8	0.2	
悪い	0.2	1.4	1.5	1.1	1.6	2.6	-	
わからない	0.8	6.3	2.7	0.5	7.1	3.2	0.2	
良い(計)	9.5	40.6	8.1	0.7	50.0	8.8	0.6	
悪い(計)	1.2	15.0	8.2	2.2	16.2	10.4	0.2	